

日刊 磐城時報

編輯 石城郡平町 田中 弘成
印刷 石城郡平町 田中 弘成
發行 石城郡平町 田中 弘成
電話 石城郡平町 田中 弘成
社址 石城郡平町 田中 弘成
定額 一月一元 三月三元 半年五元 一年十元
廣告料 一行十文字 一日一元 五日五元 一月十元
印刷 石城郡平町 田中 弘成

立町の悲慘な一家を 小田吉治氏が救助

人情に感激した小田氏

平町字立町履物商鈴木治(三九)一家では作治が重傷を負ひ妻(三五)が去る二日出産したので長男中二生(十五)を頭にして六人の子供まで一家八名の家計の途が絶たれ正君が學校を休んで奔走してゐるが食ふに術なく一家餓死に迫つてゐる事昨報の如くであるが、本紙の記事を見て好問村小田吉治氏は非常に同情し十四日朝本社を訪れ鈴木一家に對し白米三俵、味噌三貫匁、醬油二升、塩引二本の恵與方を依頼して來た。小田吉治氏は平素から義侠心に富んでゐる人として知られてゐるが、昨年來令息龜太郎氏が病氣に罹り目下仙臺東北大學病院で加療中であるが發病以來世間の人々から非常な同情を寄せられたので小田氏は更に痛切に世の人々の人情といふ事に感激してゐた折柄か、この悲慘な一家のある事を知つたので之を救助するに至つたもので、小田氏の寄贈によつて二ヶ月間の生活が出来るわけであるからそれ迄には兩親共健康を恢復するであらうと附近の人々も小田氏の厚意に感謝してゐる。

公設質屋開業

縣では中産階級以下の唯一の簡易金融機關として獎勵してゐる公設質庫を申請の順位に従つて認可してゐるが石城郡湯本町の公設質庫は二月十一日の紀元節當日營業を開始することとなつた此の運轉資金は三萬圓で郡山市同様資金の高位にあるこれは炭礦の關係上労働者が多く利用者が多いためでこれに縣下では十一箇所が認可された譯である。

中村武徳會

相馬郡石城郡四倉町では最近連日鰯の殆んど拾得同様であり切角の豊漁を見十一日から十三日まで四倉町から靜岡方面に輸送した少ないので四倉町役場では十六日から三日間同町水産商業學校の町村長會に提案詢問されたが變更を見る模様である。

石城郡町村長會 新年宴會を開いて散會

石城郡町村長會は十四日午前十分延期すると事なつた、その他時から平町團事務所樓上に開催したが、昭和六年度の事業は大體前年度を踏襲し臨時に發生する事件の外は努めて緊縮を旨として事業を行ふ等豫算は前年の八分減とし自治講習生補給、諸般事項調査、事務研究、事務改良獎勵、講習講話、聯合分會、統計協會補助等に止め視察は當

實補教育振興會

小名濱町實業補習教育振興會は一月十日小名濱小學校に開催したが、出席者多数であつた。

四倉學齡兒童

昭和六年度四月一日入學兒童數は男九十九人、女九十九人合計二百八十八人である。

四倉町美化作業

四倉小學校兒童約八百名は十三日午後〇時より四倉海岸を始め全町に亘り美化作業をなした。

四倉濱鰯の大漁

役場催で加工講習會

十六日から三日間開催

平花柳界解剖(一)

待合式の料理屋が多い

旗亭「大貞」を發見するまで

磐城の平と言ひば花柳界の發達した處として天下に知れ渡つてゐる。筆者は名古屋で生れ京都から東京で十数年を過す。職業が職業であるため二十歳から約三十年間随分各所の花柳界に出入りしたものだ。結局多く料理屋を飲み廻つたといふ事になるが、石城に來てからも随分旗亭に出入する機会が多かつた。

三日間で一千圓

飲む筈の大盡客

無錢飲食で突き出さる

石城郡澤渡村大字下市字澤川川崎庄(三六)は十四日午前三時半頃平町三丁目飲食店佐々木熊吉方に登樓し三日間で千圓だけ飲ませると威張り四圍を遊興したが、勘定となるや懐中無一文なので平警察署に突き出された。

相馬支局通信

中村初町會

相馬郡中村町會は十三日午前九時より富田村長より松川浦漁港修築に關し経過報告あり後町議森廣海氏失格による補欠選舉の件本年度の殘事業繼續可否について協議をした向町第四部消防幹部が組員の出勤手當横領云々の緊急動議も出て一寸混亂したるも大した事に至らずに終了した。

中村初町會

料理屋は料理屋、待合は待合でなければ駄目だ。客を泊めるのが利益が多いから結局料理屋はおろそかになるのは當然。料理屋の利益も、俵物でも仕出しやから取つて出すやうでは料理屋の儲けがなからず落さうな。料理屋の儲けは、客の利益の所長と新田町大貞といふ處に行つて見て始めて料理屋に來たといふ感じがして非常にうれしかった。部屋の間取りもよく綺麗だ。部屋の間取りもよく綺麗だ。部屋の間取りもよく綺麗だ。

料理屋は料理屋、待合は待合でなければ駄目だ。客を泊めるのが利益が多いから結局料理屋はおろそかになるのは當然。料理屋の利益も、俵物でも仕出しやから取つて出すやうでは料理屋の儲けがなからず落さうな。料理屋の儲けは、客の利益の所長と新田町大貞といふ處に行つて見て始めて料理屋に來たといふ感じがして非常にうれしかった。部屋の間取りもよく綺麗だ。部屋の間取りもよく綺麗だ。部屋の間取りもよく綺麗だ。

原町通信

折ヶ澤沼大繁昌

相馬郡原町御本陣櫓ヶ岡公園の折ヶ澤沼はあの廣大なる沼一面厚氷で張り詰められたので今日この頃子供、大人はては妙齡の美人迄も交りてスケートに熱狂してゐる同公園はつゞじの名所、桃の名産見晴しの佳處として知られ今はスケート場として一名所に敷へられてゐる。

木炭満載のトラック墜落

相馬郡中村町宇多川自動車業佐藤宇吉(三六)は十二日午後二時頃運轉手沼谷市太郎(二四)と共にトラックに同乗木炭を満載して同郡山上村地内急カーブに差掛つた際運轉を誤り高さ一丈數尺の崖下に墜落自動車は大破し佐藤は顔面を強打右耳を切断し深き骨膜に達する大裂傷を負ふたが運轉手は奇蹟的に無事であつた。

日用品物價

平町に於ける日用品相場は概して前月より幾分低落の状態であるが各種別の値段は左の如くである。
 白米(一キロ)一等十四錢、二等十三錢、三等十二錢、白麥十一錢、平麥十五錢、味噌(一貫目)五十錢、醬油(一升)四十五錢、清酒九十錢、木炭(四貫匁俵)檜丸八十錢、檜割五十五錢、雜六十四錢、砂糖(百匁)白十四錢、赤十一錢、肉(白身)豚肉上四十錢、並三十錢、牛肉上五十錢、並三十錢

平町人事

▲死亡 平町古鍛冶町猪狩巳代(十六)、鎌田町影山昌巳(二十三)、紺屋町金子ウメ(二二)

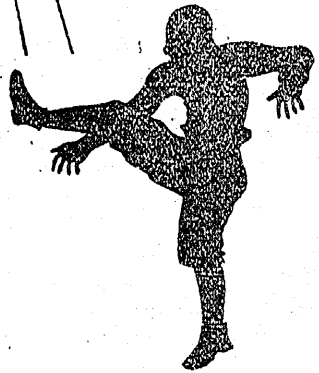
(童謡) 小狐 飯村開舟
 こんこん小狐 稻荷さま
 お宮の、お宮の 戸をたたく
 こんこん こん こんから 戸をたたく

こんこん今夜は 月夜だナ
 お宮のロソク ころころこ
 こんこんころりこ ならでやろ
 こんこん小狐 行くみちは
 つんつん月夜の いらすみち
 いっさん いっさん 逃げるみち

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
 マルソー・アランク・白 ¥1.10
 マルソー・ルー・ジ・赤
 良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

節約ハ足下カラ

赤短靴、編上靴、デモノール型・中丸型・フランス型
五圓均一革靴 (修繕自由)
 耐久保證券付革靴
 三ヶ月破損(新品交換) 十ヶ月同(修繕無料)
 内ルビモトルマ・四平 約特靴だよち
店靴地菊



高級品と有名品に 迷ふ勿れ!!!
 品質本位の詰替(2) ホリドムは是非當店へ
 平土橋山崎合名會社前
芳香園
理髮器具店 電六八〇番
 白衣各種

家傳腫物湯 ほんて効く ばれ物の妙薬
 主一●面疔●よう●乳の腫れ●指のはれ●林巴腺の腫れ
 効一●等●よし ●耳鼻のおでき●骨膜炎●筋炎●はれ物手術の前夜
 ◎特にかほのおでき、乳のはれは切らずに治り醜き痕を残さず美容上最適の治療劑なり
 定價 五十錢 七十錢 一圓十錢 一圓五十錢
 特約店 平町四丁目 小野藥店 四ツ倉町 荒川藥店
 平町三丁目 宇佐美藥店 植田町 松本藥店
 湯本町 岩瀬屋藥店 富岡町 莊野藥店
 肋膜湯 製劑所 茨城縣下孫 磯野醫院製劑部

寒きに暖房は 鈴木のたごん
 「アンカ」...「コタツ」は...一晩一個
 木炭代用 頗る經濟
 平町宇古鍛冶町杉ノ澤
鈴木炭團製造所
 電力應用 鈴木炭團製造所
 平町宇古鍛冶町杉ノ澤
魚清水卸部
 電話六三三番
 速配 達
 一車積の御注文は特に御相談に應じます

外科專門 X光線科
 入院應需
 平町南町
上田外科醫院
 電話一二九番

溫灸 胃腸病 醫學博士廿名推獎
 特許ラチウム温灸器
 肺病、肥り度い人婦人病 冷え症、慢性諸病に特効
 特約代理 福島縣平町五ノ廿八 志賀齒科醫院
 治療部 福島縣平町白銀町九 關悦子

外科專門 花柳病科
 平町六丁目橋際
木村外科醫院
 電話三〇九番

第廿回營業報告 (自昭和五年六月一日 至昭和五年十一月卅日)

貸借對照表

資本金	二五,〇〇〇.〇〇	負債之部	一七,七五〇.〇〇
未拂込株金	二,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇
未拂込金	一〇,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇
貸付金	一〇,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇
共同購入品	一〇,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇
什器	一〇,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇
共同購入品	一〇,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇
振替口座	一〇,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇
現金及預金	一〇,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇
合計	一〇,〇〇〇.〇〇	借入金	一〇,〇〇〇.〇〇

利益金處分案
 一金貳千九百貳拾六圓參拾六錢
 當期總利益金
 一金貳千六百八拾六圓四拾七錢
 當期總損益金
 差引純益金貳百參拾九圓八拾九錢也
 前期繰越金
 一金四百貳拾八圓八拾四錢也
 二口合計金六百六拾八圓七拾參錢也
 之ヲ處分スルコト左ノ如シ
 一金壹百五拾圓也 法定積立金
 一金壹百五拾圓也 別途積立金
 一金參百六拾八圓七拾參錢也 後期繰越金
 右之通り相違無之候也
 昭和五年十二月三十日
小名濱水産株式會社